

水稲「愛知糯90号」の奨励品種採用								
〔要約〕強稈・多収で栽培安定性が高く、耐病性に優れた早生の晩種「愛知糯90号」を「カグラモチ」に替え奨励品種に採用し、水稲糯生産の安定化を図る。								
三重県農業技術センター・資源開発部、伊賀センター					連絡先	05958-2-6363		
部会名	水田・畑作物	専門	育種	対象	稲類	分類	普及	

〔背景・ねらい〕

本県の水稲糯の作付面積は700haであり、その75%は「コシヒカリ」の収穫後に刈り取る早生の晩種「カグラモチ」が作付けされている。しかし「カグラモチ」は倒伏し易く、穂もち病抵抗性が弱く、また食味の粘りもやや弱いなどの問題点が指摘され、より優良で栽培性の優れた糯品種の普及が要望されている。

このため、強稈・多収で栽培安定性が高く、耐病性に優れた早生の晩種「愛知糯90号」を「カグラモチ」に替え奨励品種に採用し、水稲糯生産の安定化を図る。

〔成果の内容・特徴〕

「カグラモチ」に比較して下記のような特徴を有する。

- ① 出穂期は同程度であるが、成熟期は4～5日早く、また「コシヒカリ」に比べ4～5日遅い早生の晩種である。
- ② 稈長は13～15cm短く、穂長もやや短い、穂数はやや多い。止葉は直立し草姿の良い短稈偏穂重型種である。ふ先色は褐。
- ③ 太茎で倒伏しにくい。穂発芽性は同程度の「中」である。
- ④ 穂もちちはやや強、白葉枯病には同程度の抵抗性を示す。
- ⑤ 玄米千粒重は2.0g程度大きく、外観品質は同程度である。
- ⑥ 収量性は優れ、平坦部では梗品種と同程度の多収である。
- ⑦ 切餅適性は、粘りやや強く良好である。

〔成果の活用面・留意点〕

- ① 普及地域は県下全域。「コシヒカリ」収穫後の糯種として、「カグラモチ」に替え普及。普及予定面積は600ha。
- ② 短稈偏穂重型種のため、穂数の確保に努め、また生育量確保のために瘦薄地は避ける。
- ③ 登熟期間が長いので早期落水を避け、品質向上に努める。

〔具体的データ〕

表1 奨励品種決定調査成績

実施 場所	品種名	出穂期 月日	成熟期 月日	稈 cm	穂 長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	倒伏 %	葉い もち	穂い もち	紋枯 病	白葉 枯病	穂 発芽	精米 率 kg/t	同左 比	千粒 重 g	容積 重 g/L	品質
本 場	愛知糯90号	7.26	9.5	79	20.2	405	1.5	0.1	0.1	1.3	1.2	0.7	52.9	108	21.3	818	4.3
	(比)カグラモチ	7.25	9.9	92	21.2	372	2.3	0.0	0.3	0.9	1.2	0.8	49.0	100	19.3	816	4.5
	(参)コシヒカリ	7.24	8.31	90	19.2	461	4.1	0.2	0.7	1.1	0.3	0.4	51.6	-	20.5	826	-
伊 賀	愛知糯90号	7.28	9.6	67	19.5	375	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	52.3	95	22.6	832	4.0
	(比)カグラモチ	7.31	9.12	82	22.4	324	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.0	100	20.8	828	4.0
	(参)コシヒカリ	7.28	9.3	92	20.2	393	3.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	68.0	-	22.7	844	-

- 注) 1. 本場は1990～1994年の5年間平均、伊賀センターは1994年度の成績。  
 2. 移植期は、本場4月25日、伊賀5月10日 2. 施肥はN-P-Kとも0.54+0.4kg/a  
 3. 生育中の障害(倒伏、葉・穂いもち、紋枯れ、白葉枯れ、穂発芽)は、0無～5基の6段階評価とした。  
 4. 品質(外観)は、1(上の上)～9(下の下)の9段階評価で示した。

表2 精米および加工適性調査(1994年産、県内精米、加工業者依頼)

	玄米品質	精米品質	切餅適性	粘り	総合評価
愛知糯90号	優	優	優	やや強い	優
カグラモチ	良	良	良	普通	良

〔その他〕

研究課題名： 奨励品種決定調査  
 予算区分： 国庫補助(1/2)  
 研究期間： 平成6年度(平成2年～6年)  
 研究担当者： 立松伸夫、山川智大、橘 尚明、森本順一、児玉幸弘